

大手橋

おおてばし ● Ote-bashi
(東横堀川)



かつては「思案橋」と呼ばれていた大手橋は、大阪城の大手門から通じる道筋に位置するが、この橋を渡ると直進はできない。そのため左右どちらに行くか迷うことから思案橋といわれるようになったとか、豊臣秀吉が五奉行の一人、増田長盛に橋の名前を付けるよう命じたが、なかなか決まらず思案したために思案橋になったともいわれているが、豊臣時代には確実に架けられていた。

ちなみに、橋の西側を直進できないようにしたのは、軍事上の配慮があったのではないかという説がある。

この道筋を大手通というようになったのは、明治5(1878)年以降のこと。また、橋の名前が大手橋になったのは大正時代になってから。

現在の橋は、第一次都市化計画事業に基づいて、大正15(1926)年に三径間鉄筋コンクリートのアーチ橋に架け換えられたもの。

東横堀川に架かる橋は、鋼鉄製の橋とコンクリート製の橋がほぼ交互に並んでいる。これは偶然ではなく意図があるはず。また、デザインもそれぞれに独特の雰囲気がある。

